



▲津波の洗礼を受けた宇佐湾

昔から大小何回かの津波の洗礼を受けてきた宇佐では、先人がその経験を通してつかみとった尊い教訓を残してくれています。安政の大地震の時の津波は、波頭が萩谷の入り口まで来たということから、その地に記念碑が建てられています。その碑文の中にこう記されています。

「昔宝永の変にも油断の者 夥敷^{おびただしく}流死の由、今度もその遺談を信じ取りあえず山手へ逃登る者、皆恙なく、衣食等調度し又は狼狽して船にのりなどせるは流死の数を免れず可哀哉」（昔、宝永地震の時に油断した者が溺死しました。今回の安政地震でも、昔の話を信じて山に逃げ登った者は無事でしたが、衣類、食料などを気にかけて逃げ遅れた者や慌てて船で逃げようとした者などは溺死しました。ああかわいそうな話です）

過去の体験から、津波の時にはまっしぐらに山へ逃げよという教えが宇佐では言い伝えられています。このことが、昭和地震でも活かされて、他の地域に比べて宇佐では死者が少なかったという結果につながっています。



背景

昭和21年（1946）の南海地震後の津波は、土佐市の宇佐地区に壊滅的な被害をもたらしました。津波の害を受けない者は一人もいないと言われるほど大きな被害でした。しかし、宇佐町の被害には、他の地域と比べて特色がありました。それは死者が少なかったということです。その理由は、津波を経験した昔の人たちが後世に尊い教訓を残してくれているからだと言われています。

アクセス 安政地震の碑

- 宇佐漁港より西北西へ直線距離約1 km
- 土佐市宇佐町宇佐萩谷地区
- 緯度経度 北緯33度27分20秒，東経133度26分17秒

